



下村脩博士「佐世保市名誉市民顕彰式」

多感な時代を過ごした佐世保で
誇りある賞をいただき感謝しています



本市では、昨年12月にノーベル化学賞を受賞し、本市にゆかりのある下村 脩博士を米国からお招きし、3月21日に「佐世保市名誉市民顕彰式」を開催しました。式典での後輩代表祝辞、下村博士の謝辞の内容などを要約してお知らせします。

後輩代表祝辞

● 白南風小学校5年 川久保 響

突然ビッグニュースが舞い込んで来ました。ノーベル化学賞受賞の下村博士は何と僕たちの小学校の先輩だと言ったのです。ノーベル賞と言えば、知らない人はいない世界的に有名な賞です。白南風小学校はこのビッグニュースに沸きました。すぐに、校舎にお祝いの垂れ幕が掛かり、ノーベル賞を一気に身近に感じました。

僕たちは、受賞の内容はどんなことだろうと興味を持ちました。そして、オワンクラゲはどんな生物だろうと、インターネットで調べてみました。オワンクラゲの中には「緑色蛍光タンパク質」があり、刺激を与えるとそれが光るということが分かりました。そのことが現在の医学に大きく貢献していることを知り、下村博士の発見の偉大さを感じました。85万匹ものクラゲを採集された下村博士。85万匹と言えば、1日10匹ずつ採集したとして233年もかかるという気の遠くなるような数です。僕たちは、偉大な発見の影には何年にも及ぶ地道な努力があることを知りました。

僕の将来の夢は薬剤師です。僕はよく病気がかりです。病気を早く



治すには薬が欠かせません。数多くの薬のおかげで僕は病気を治してきました。今こうしている間にも多くの人が病気で苦しんでいます。また鳥インフルエンザなど新しい病気が発生し、新薬の開発が急がれます。早く開発しないと大変なことになるかも知れません。だから僕はそのような人々を救う一員となって、多くの人々を助けたいという夢を持っています。

下村博士のノーベル賞受賞は、僕たち後輩に夢を持つことの素晴らしさを改めて教えてくださいました。ありがとうございます。そして4年生のときに、また佐世保

謝辞 ● 下村 脩

私は幼少時代、聖心幼稚園に1年間通いました。そのころは白南風町の女子校の運動場のすぐ上に住んでいました。そのあと3年間は満州の小学校に通いました。日本人学校の同級生は4人で、夏は魚釣り、冬はスケートをやるぐらいしかありませんでした。

に戻り、白南風小学校に入れていただいたんですが、そのころから私は本を読むのが好きになりました。ある日歯医者に連れて行ってもらったんですけど、そこに「猿飛佐助」とか「銭形平次」とか面白い本がたくさんありまして、そういう本を楽しく読んでいました。歯医者も済んだあとは、市の図書館に毎日通いました。そんなことが漢字を読むことに役立ったと思います。

白南風小学校の運動場の端っこに行くとき土手があった、土手から港を眺めると、とてもきれいでした。潜水艦がずらっと並んでいたこともありました。そういうことを今でも覚えています。

その後、佐世保中学に入り、そのころから戦争がひどくなり、教練の時間ができました。足に巻きゲートルを巻かされて「前へ進め」とか「右向け右」とか、そんなことをやらされました。その後1学期が終わったころに日宇へ移り、そこに1学期の間居て、大阪に転校しました。

私は非常に多感な時代を佐世保で過ごし、今懐かしいというより、ちょっと感傷的になっているところもあります。今日は名誉市民という誇りある賞をいただきまして、感謝しております。ありがとうございます。

● 名誉市民表彰 市勢の伸長、公共福祉の増進又は文化の発展に貢献し、その功績が卓絶で、世の敬仰をうけた市民又は市に縁故の深い者に対し、佐世保市名誉市民の称号を贈るもの（佐世保市表彰条例第2条から抜粋）。下村博士は昭和55年10月に表彰した辻一三氏に続き、11人目の表彰となる。

※川久保さんの学年は顕彰式当日現在で掲載しています。

①笑顔で顕彰式に臨む下村博士 ②顕彰式を行った市議会議場 ③顕彰状 ④朝長市長から顕彰状を受け取る下村博士 ⑤後輩代表祝辞に拍手を送る下村夫妻 ⑥後輩代表として偉大な先輩に祝辞を述べる川久保くん ⑦下村博士の同窓生により佐世保南高校(旧制佐世保中学)に建立された顕彰碑 ⑧下村博士の来校に喜ぶ佐世保南高の生徒たち ⑨ノーベル化学賞受賞式で贈呈されたメダル